

令和元年度北海道稚内養護学校 第1回学校運営協議会記録

1 日 時 令和元年6月25日(火) 10:00～12:10

2 場 所 北海道稚内養護学校 会議室 視聴覚室

3 式次第

- (1) 開会
- (2) 学校長挨拶
- (3) 委嘱状授与
- (4) 会長、副会長挨拶
- (5) 学校運営について
 - ・学校運営に関する基本方針の説明
 - ・質疑
- (6) 主な活動等の説明について
 - ・平成30年度学校評価
 - ・各学部の交流及び共同学習の様子
 - ・養護学校前花壇整やボランティアセミナー開催
- (7) 各部に分かれての熟議
 - ・学校評価部会
 - ・地域連携部会
- (8) 全体交流・質疑
- (9) 校長挨拶
- (10) 閉会

4 協議内容(各委員からの主な意見)

➤学校評価部会

(1)平成31年度学校評価について

協議の柱「学校と地域課題の共有と課題解決に向けた方策について」

①地域アンケートの集約結果を踏まえた意見

- ・養護学校が認知されていない状況は、開校当時からあまり変化がないと感じる。学校側が理解をしてもらう努力はしてきているが、関心の無い人にはなかなか届かない。割り切って考えていくことも必要。
- ・学校の地域との活動自体は以前より増えてきていると思うが、新聞を取っていない人も増えており、記事を見てもらうことができない。HPについてもインターネットの環境が整っていないことが、数値が低い理由の一つと考える。お金をかけてPRする必要がある。
- ・寮祭の発想を変える(地域に案内するなど)こともよいと考えるが、会場が手狭などの課題もある。

- ・声間地区ノーマラーゼーションには30, 40年以上関わっている。養護学校との関わりでは存在はわかっているが「地域に開かれた」という感じではなかった。緑ヶ丘学園は歴史も古くノーマライができる以前から関わりがあった。ノーマライのイベントは日曜日の設定が多く、養護学校の参加が難しい状況がある。子ども達、保護者(家族)が参加できる状況にあると、地域との関わりが深くなっていくのでは。
- ・養護学校だけが認知されていないわけではない。はまなす学園も意外と知られていないと感じている。はまなす学園は関係者が多いため、関係者には認知されている。それ以外の市民の皆さんの認知度はそれほどではない。
- ・評議員を6年やっているが、この間、地域との輪は広がってきていると感じている。
- ・子どもが卒業し3年経ち、以前より交流が増えていると感じた。しかし、身近に障がい者がいなければ、なかなか関心を持ってないのでは。

②保護者アンケートより評価が低かった項目について

- ・自分の子どもの外部とのつながり(連携)は見えてくるが、通常の活動の中での全体的な連携は概要が見えづらい。事例集(提携先やつながりを図のようなもので示すなど)があればわかりやすい。具体的にどのようなものがあるのか洗い出してみてもどうか。
- ・学校は担当者が入れ替わるため、連携の維持が難しい。特定の児童生徒が卒業するとそこで生まれた連携が途切れてしまったり、顔見知りの教員がいないと卒業生とのつながりが途絶えてしまったりする。
- ・子どもが地域の普通学校の生徒と交流し、一緒に調理などをしていた。地域の子も達との関わりが生まれる良い取組だったと思う→交流は今もないわけではない。しかし、「会」はあるが活動があまりされていない。また、養護学校よりも支援学級の生徒が中心となっている面がある。子ども達が地域に帰ることを考えると、そういったつながりが求められるかもしれない。
- ・開校当初、夏休みに自分の居住地域で交流(キャンプをするなど)をしていた。そこまですらなくとも、学校サイドで地域の人との話し合いの場を設けることも可能ではないか。
- ・次年度学校評価アンケート作成に向けて、30年度の記載の項目を見直す予定である。10月に部会を開いて素案を作成し、10月下旬の第2回協議会で提案する。事前に資料をご覧頂き意見をいただきたい。→学校評価の数値化はわかりにくいとの意見ある。
- ・遠方の方(離島、浜頓別)で、暴風雪で帰省が困難な方に、はまなす学園を利用している。学校から案内する際に情報の食い違いがある。ショートの手配は利用率が高く緊急の対応が難しい。寄宿舎の利用はできないのか。契約は施設と保護者で行うため、正確な情報を保護者に伝えて欲しい。

➤地域連携部会

(1)地域資源を活用した教育活動について

協議の柱「地域と共に歩む学校を目指し、地域資源の活用による体験活動の充実について」

①自己紹介

②テーマの共有

③ポスターを見る、意見や思いを付箋に書き出す、ポスターに貼る

④ポスターを見ながらの協議、意見交換

⑤まとめ

【テーマの共有】

・教育の充実のための教員の考えや思いに対して、お返事をください。

「〇〇に連絡するといよいよ！」「一緒に〇〇しませんか？」「〇〇なら協力できるよ」・・・
など

【協議、意見交換】

・いろいろな人が学校に関われるとよい。

⇒

学校のホームページはあるが、年配の方や忙しい人は見られない。図書館に学校便りを掲示したり、稚内信金の掲示コーナーに依頼したりするなど、アナログな方法の方が見られるのでは。図書館は市民のサロンのようになっている。ユアーズに掲示してもらったり、大学にコーナーを設けたりするのもよいと思う。

・声間神社祭や夏祭りの準備が負担になっている。

⇒

協力できる部分だけでもよいと思う。負担にならない範囲で協力してもらいたいと考えている。

・鑑賞のネタが不足している。

⇒

稚内大谷高校の芸術鑑賞会に参加するのはどうか。卒業生にコンサートをしてもらったこともあった。

・花壇整備を声間小学校と行ってはどうか。

⇒

ノーマライゼーションとのマッチングで行ってはどうか。協力するだけでなく、一緒に行うとよい。

・町内会や声間小学校、明治乳業などと合同でゴミ拾いをしてはどうか。

・ゴミ拾いをする区域が各事業所等と重なっていてゴミがないこともある。

⇒

町内会も福祉施設も含めて実施してはどうか。それぞれの場所でも行っているのでも、一緒に行えるとよい。日程を合わせるのは課題となるが、場所を分担してもよいと思う。

・買い物を一人でできるような練習をしたい。

少し遠いが、ユアーズは受け入れ可能である。店側が子どもたちにどういってお手伝いが必要かを学ぶ機会にもなる。障がい者が働きやすくなれば、障がいのない人も働きやすくなると思っている。

- ・稚内大谷高校との交流をさらに充実させたい。
- ・養護学校の生徒が何かをされる側ではなく、教えて一緒に活動できるものもあるとよい。(作業体験など)

⇒

本校の生徒にとってもよい刺激となっているので、共に行うために、養護学校の活動を見てみたい。どのような活動をしているかをこちらでも知ることで発展できるのではないかな。

- ・地域との交流を含む行事を増やすことで、相互理解を深めることになるのではないかな。

⇒

これほど地域と活動していることは知らなかった。活動を広く知ってもらうには、無理に増やす前に広く認知されると、「うちもなんとか」という人や団体や会社が自然に増えると思う。「地域食堂ふらっと」も一人で始めたと聞いたが、どんどん増えている。広く知られることで協力してくれる人が増えていくと思う。

- ・学生ボランティア、ゲストティーチャーなど大学のサポートを受けることはできないかな。

⇒

大学との連携は可能である。学生は授業もバイトもあるので、日時や計画を早めに伝えてもらえるといい。連絡が曖昧になると難しくなる。毎週というのは無理だが、「この日！」と言ってくれるといい。「この日なら行ける！」という集まりでよいと思う。

- ・地域産業の活用・体験はできないかな。

⇒

漁業士会に頼んでみてはどうか。昨年、宗谷振興局から依頼があり、ホタテの殻むきなどを行った。指導もしてくれた。連絡してみると良いのでは。

5 全体交流・質疑

- ・学校評価について、教員と保護者の質問項目が同じだと比較がしやすい。

⇒

次回の部会で検討をすすめる。

- ・先生方と同じ方向を向いて取り組んで行きたい。学校を通して地域を良くしていけたらと考える。